

令和5年度行政事業レビューシート		( 文部科学省 )					
事業名	地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業			担当部局	総合教育政策局	作成責任者	
事業開始年度	令和6年度	事業終了(予定)年度	令和8年度	担当課室	生涯学習推進課	生涯学習推進課長 石橋 晶	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	経済財政運営と改革の基本方針2023(令和5年6月16日閣議決定)		
政策	1 新しい時代に向けた教育政策の推進			主要経費	教育振興助成費		
施策	1-4 生涯を通じた学習機会の拡大						
政策体系・評価書URL							
事業の目的 (5行程度以内)	専修学校において、ビジネス学科やデザイン学科など、就労後の実務がIT化している学科のカリキュラム高度化を図るとともに、需要の減少している学科について、ITをはじめとする理系分野の学科への転換・新設を図り、学科の「理系転換」等の再編を推進することで不足するIT人材の育成に寄与する。						
現状・課題 (5行程度以内)	経済財政運営と改革の基本方針2023(令和5年6月16日閣議決定)では、成長分野への学部再編等や先端技術に対応した高専教育の高度化等による学びの転換の促進、未来を支える高度専門人材を育む専門学校等の機能強化を図っていくことは、重要な課題として指摘されている。一方で、民間企業の調査によると、ITに関連する製品やサービスを提供するITベンダーやユーザー企業の情報システム部門で活躍する、いわゆるIT人材が、2030年には45万人不足するとの試算もある。また、IT産業(情報通信)の従業員数の51.1%は東京都に集中し、他産業と比べ東京偏在が顕著となっており、地方におけるIT人材不足への対応も急務である。こうした中、柔軟な制度的特性を生かしながら産業構造の変化や各地域のニーズ等に対応した実践的な職業教育を行い、地域産業の発展を支える人材養成機関たる専修学校の果たすべき役割は非常に大きいところ、専修学校においてもIT人材育成に積極的に取り組んでいく必要がある。						
事業概要 (5行程度以内)	専修学校において、ビジネス学科やデザイン学科など、就労後の実務がIT化している学科のカリキュラム高度化に係るモデルを構築するとともに、需要の減少している学科について、AIやビッグデータ等これからの成長が見込まれる最先端分野やクラウドや情報セキュリティ等従来から大きな影響を与えてきた分野に対応するための学科の転換・新設に係るモデルを構築し、学科の「理系転換」等の再編を推進する。						
事業概要URL							
実施方法	委託・請負						
補助率等							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の 状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	423.5
		執行額(G)	-	-	-	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-	-	-
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	-	-	-		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	教育政策推進費			※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計額が一致しない場合がある。 要求額のうち「重要政策推進枠」:424百万円		
	(目)	教育政策推進事業委託費		420.3			
	(目)	職員旅費		1.7			
	(目)	委員等旅費		0.8			
	(目)	諸謝金		0.5			
	(目)	庁費		0.2			
	(目)	その他	-	-			
	計(A)	-	423.5				

<b>活動内容①</b> (アクティビティ)	専修学校において、ビジネス学科やデザイン学科など、就労後の実務がIT化している学科のカリキュラム高度化に係るモデルを構築するとともに、需要の減少している学科について、AIやビッグデータ等これからの成長が見込まれる最先端分野やクラウドや情報セキュリティ等従来から大きな影響を与えてきた分野に対応するための学科の転換・新設に係るモデルを構築する。									
↓										
<b>活動目標及び活動実績①</b> (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	各取組拠点における多様なモデルの開発	開発したモデル数	活動実績	件	-	-	-	-	-	
			当初見込み	件	-	-	-	-	18	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	専修学校の教育分野は多岐にわたり、その分野に応じ、カリキュラムの高度化や転換・新設のあり方は多種多様となることが想定されるため、取組拠点を確保し、多様なモデル開発に取り組むことをアウトプットとした。 ITをはじめとした理系分野の学科への高度化、転換・新設に係る実効性のある有用なモデル開発が実現できれば、価値を感じた全国の専修学校がモデルを活用し、各校の特性や現行カリキュラムに応じた理系転換等の再編・充実が行われていくことが想定されることから、短期アウトカムとして「モデルの普及による全国の専修学校における理系転換等の再編の促進」を設定した。								
<b>成果目標及び成果実績①-1</b> (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度		
	モデルの普及による全国の専修学校における理系転換等の再編の促進	各取組拠点で成果の普及・展開を行った団体数	成果実績	団体	-	-	-	-		
			目標値	団体	-	-	-	36		
			達成度	%	-	-	-	-		
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>	文部科学省調べ(各取組拠点への聞き取り)									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	全国の専修学校がモデルを活用し、各校の特性や現行カリキュラムに応じて、ITをはじめとした理系分野への学科の高度化、転換・新設の再編が進めば、ITに関して学ぶことができる場が広がり、IT人材輩出の増加につながると考えられるため、長期アウトカムとして「専門学校が輩出するIT人材の増加」を設定した。								
<b>成果目標及び成果実績①-3</b> (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 12年度		
	専門学校が輩出するIT人材の増加	専門学校が輩出したIT人材数	成果実績	人	-	-	-	-		
			目標値	人	-	-	-	14,500		
			達成度	%	-	-	-	-		
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>	学校基本調査									
<b>アウトカム設定についての説明</b>	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									

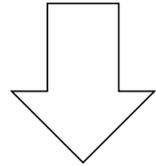


※執行実績がない新規要求事業のため、現時点での予定やイメージを記入。

文部科学省  
423.5百万円

※本省執行分  
①職員旅費 1.7百万円  
②委員等旅費 0.8百万円  
③諸謝金 0.5百万円  
④庁費 0.2百万円  
を含む。

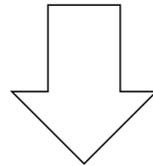
審査委員会を設置し、委託先の選定及び事業成果の評価等を行う。



委託【随意契約(企画競)

A. 学校法人等(6団体)  
120.2百万円

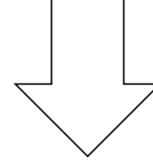
高度化



委託【随意契約(企画競)

B. 学校法人等(12団体)  
279.1百万円

転換・新設



委託【随意契約(企画競)

C. 民間事業者等(1団体)  
21.0百万円

分野横断連絡調整会議の実施

資金の流れ  
(資金の受け取り先が  
何を行っているかにつ  
いて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック